様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０２９６３

研究課題名（和文）ハワイにおける日本人漁業の発展と日米関係の変遷

研究課題名（英文）The development of Japanese Fisheries in Hawaii and US-Japan Relations

研究代表者
小川　真和子（OGAWA, MANAKO）

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：６０４４３６１０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、一九世紀後半から始まり、今日においてもハワイの水産業界に多大な影響力を及ぼしている、ハワイの日本人漁業について、主に社会史的な観点から明らかにした。特に、プランテーションにおいて従属的な立場に置かれていた日本人移民が、なぜ漁業を中核とする水産業界では主導的な立場に立てたのか、日本の漁村文化がハワイにおいてどのように変遷したのか、戦時中における漁業の実態と戦後における復興の様子、さらに戦後の大きな政治的経済的変遷の中で、漁業がどのように変容したのか、といった観点について、解明することができた。これらの研究成果は、『海の民のハワイ』（人文書院）をはじめとする著作にまとめられた。

研究成果の概要（英文）：This research has revealed the Japanese fisheries in Hawaii from the late nineteenth century to contemporary times. When Japanese fishermen arrived in Hawaii, they brought fishing techniques developed in their homeland to the Hawaiian archipelago and adapted them to the new circumstances. Within a short period of time, they expanded the local fisheries into one of the pillars of Hawaii's economy. Unlike most of the previous works on Japanese immigrants to Hawaii that focus on sugarcane plantations, this study is the first comprehensive history of Japanese as fishermen, and produced books, such as Sea of Opportunity (University of Hawaii Press, 2015) and Umi-no-tami-no-Hawai (Jimbun Shoin, 2017), and various academic articles and presentations.

研究分野：アメリカ研究

キーワード：ハワイ　水産業　日系移民史

１．研究開始当初の背景

ハワイにおける日系移民研究はこれまでも多くの業績があげられている。しかしそれらのほとんどが、砂糖キビ・パイナップルプランテーションにおける労働を視点の基準に据えている。そのため、プランテーションにおいて、日系労働者が白人支配層によって従属的立場に置かれていたことを強調するものが多い。またプランテーションにおける人種関係、具体的には、「分断統治」を旨とする労務管理が生みだした人種関係が、そのままハワイの多文化環境を作ったと見なす視点が、従来におけるハワイの日系移民の「スタンダード」であった。

しかし、戦前のハワイにおいて、砂糖キビ、パイナップル生産に次ぐ規模の産業であった水産業からハワイを見直すと、上記の、極めて農本主義的な研究とは全く異なる体験や人種関係が浮かび上がってくる。

そこで、本研究を開始するに当たって、「海」を視点の中心に据えることによって、上記のような農本主義的な見方では捉えきれない日系移民社会の多様な側面を明らかにする必要がある、と考えるに至ったことが、本研究開始当初の背景にある。

２．研究の目的

本研究は、ハワイにおける日系移民社会を漁業から捉え直すことによって、農本主義的な視点からは見えてこないハワイの多彩な側面を明らかにする。特に漁業において、日系移民は 19 世紀後半から戦後にかけて長らく漁労を主導しており、太平洋戦争開戦直前には、ハワイの市場に供給される漁獲物の九割以上が日系人によるものであった。

さらに日系人は漁労のみならず、漁獲物の加工や流通を含む水産業全体において、1920 年代から今日まで一貫して指導的な立場に立っている。これは日系人が従属的な立場に置かれていたプランテーション社会と大きく異なっている。

また人種関係においても、漁業においては「分断統治」の労務政策が取られなかったため、日系人が地元の中国系や白人の同業者と共同で事業を行い、時にはそれらが日系人同士の関係よりも優先されるなど、プランテーションには見られない関係が築き上げられていた。

さらに日米戦争時における体験も、漁業に従事した日系人とプランテーション就労に携わっていた日系人では大きく異なる。ハワイにおいては、大統領令 9066 令が適応されなかったため、米本土西海岸のような、日系人の「根こそぎ」強制収容が避けられた。そのため、従来の日系移民研究においては、ハワイの日系人が、コミュニティの指導者を除いて、通常の生活を送ることが出来た、とされている。

しかし漁業に携わっていた日系人は、米軍によって「根こそぎ」強制収容され、その多くは戦時中を通して収容されたままであったことは、従来知られていなかった事実である。また米海軍が漁船を没収し、日系以外の漁民による漁労も厳しく制限したため、ハワイにおける漁業は壊滅状態に陥った。これらの事態に対して、ハワイ準州政府側は、日系人の漁労禁止を解いた上で、漁船を持ち主に戻すよう、米軍側に再三申し入れていれている。これは米連邦政府や大統領府の対日政策と大きく異なる。このことにより、ハワイ準州は漁業を巡って、ワシントンと時に対立していたことが伺える。

このように、漁業を視点の中心に据えることによって見えてくる日系社会の体験は、陸の視点と大きく異なっている。そこで、本研究は、海の視点から捉え直すことによって、従来の日系移民史研究のみならず、ハワイ史、そして日米関係史に新たな視点を提供することを目的としている。

３．研究の方法

本研究では、主にアメリカ国立公文書館やハワイ州立公文書館、ハワイ並びに日本の水産業者が所蔵する一次資料の収集、分析を通して社会史的な研究を行った。具体的には、アメリカ国立公文書館では、連邦政府によるハワイの漁業政策関連資料を収集、分析した。特に本研究で使用したのは、米商務省漁業局、内務省魚類及び野生生物局、国務省、及び米海軍の公文書である。

ハワイ州立公文書においては、準州農林行政委員会及び魚類鳥獣部関連の公文書を収集した。

それ以外の一次資料としては、ハワイ大学ハミルトン図書館が所蔵するハワイの漁業関連資料及びハワイで出版されていた日本語新聞、広島県立図書館、和歌山市民図書館、沖縄県立公文書館が所蔵するハワイ移民関連資料を収集した。さらに文字化されていない個人の体験談については、山口県周防大島町沖家室、沖縄県糸満市、うるま市を中心に、関係者への訪問ならびに聞き取り調査を行って、情報やハワイの漁業関連の写真資料などを収集した。

本研究は、これらの一次資料に加えて、日系移民研究関連の二次資料もあわせて収集し、それらの分析を行うことによって、社会史的な観点から行ったものである。

４．研究成果

本研究の成果は単著、共著、学術論文、学会での研究発表として報告された。

なかでも代表的なものである単著、『海の民のハワイ　ハワイの水産業を開拓した日本人の社会史』（人文書院、2017 年、286 頁）は、本研究の集大成である。そのため、本書の概要を通して、本研究の成果のまとめと報告に代えたい。なお、適宜、学術論文や学会での報告についても触れる。

本書はまず導入部分において、「海の民」と

は何かという定義づけを行い、あわせてハワイの日系移民研究を「海」の視点から問い直すことの必要性について、これまで日米両語によってなされた先行研究を批判的に引用しつつ議論を展開した。

続く第一章では、日本の漁業文化と歴史について、かつてハワイに多くの海の民を送り込んだ和歌山県、山口県、広島県を中心にまとめた。これらの地域が古来より遠方へ出漁する歴史と伝統を持っていたこと、そして明治維新以降、国外への出漁が盛んになると、やがて数ある出漁先の中にハワイが組み込まれていった過程について説明した。

第二章では、19 世紀後半におけるハワイの日本人漁業の草創期から始まって、やがて日本人が中心となって現地における近代的な水産業を確立する 1920 年代までの期間を扱った。この過程で起きた、ハワイ人をはじめとする古参の漁民との軋轢や、準州政府関係者による日本人漁民排斥の動き、そしてそれらに対する日本人側の対応について触れた。

さらに、日本人がハワイの水産業において指導的地位を確立せしめた要因、たとえば出身県を中核とした漁業会社の設立や、現地の流通業界に大きな力を持つ中国系商人との連携、ハワイ人漁民との技術交流などについて、現地の政治、経済のみならずハワイにおける複雑な人種、エスニック関係の分析を通して明らかにした。これらの一部は雑誌論文「ハワイの海と日本の海：ハワイでカツオの一本釣り漁を行った日本の漁師さんの物語」でも触れた。

続く第三章では、日本人漁業の黄金期とも言える1920年代から1930年代を取り上げた。この時代のハワイで操業するサンパンと呼ばれる動力漁船のほとんどは日本人所有となり、水産物流通・加工業においても日本人の独占状態が確立していた。このような水産業の発展は日本人漁村の拡大をもたらし、漁業の安全を祈願する「金刀比羅神社」などの宗教施設や、社会生活を支える様々なネットワークも作られた。また準州政財界も日本人漁業を保護育成する政策に舵を切り、ハワイ海域における水産資源の保護を模索し始めていた。このように本章では日本人水産業を社会的、政治的、経済的側面などから論じつつ、官民挙げてハワイの漁業振興のために尽力した様子について述べた。本章の一部は、学術発表、“The 'Konpira-san' in Hawaii and the Japanese Fishing Culture from the 1920s to the Present”でも報告された。

そして第四章では、日米開戦に至る日米関係の悪化と、開戦後におけるハワイの水産業の状況について論じる。米軍部から日本帝国のスパイとしての嫌疑をかけられた日本人漁民は 1930 年代以降、漁撈制限や漁船の没収などによる排斥の対象となった。また日米開戦後は漁民や水産業関係者が相次いで強制収容されたため、ハワイの水産業は壊滅状態に陥り、漁村の生活は破壊された。

しかし日本人漁民を貴重な食糧生産者と見なす準州政府や地元財界関係者は漁業の復興を強く要望し、日本人の海からの排除に固執するルーズベルト大統領や軍部と対立した。そして戦争末期になると、地元政財界は漁業の復興へ向けた動きを加速させた。

このように本章では、戦争によるハワイの水産業への影響や日本人漁業を巡る議論について明らかにした。

なお、本章の内容の一部は、雑誌論文「ハワイ準州における対日本人漁業政策－1930 年代から 40 年代を中心に」及び学会発表"The Sampan and Seascapes of Wartime Hawai‘i: The Dialogue Over Japanese Commercial Fishing in Hawai‘i Between the Local and Federal Governments From the Late 1930s to the 1940s"でも報告された。

第五章では、戦後におけるハワイの水産業の復興および日本人漁村の変容について論じた。水産業の復興において大きな懸案となっていた漁民の高齢化と後継者不足の問題を解消するため、日本人水産業者は米軍統治下にあった沖縄から漁民を研修生として招聘したことから、ハワイの漁業は再び興隆した。しかし沖縄の本土復帰後、研修生の多くが帰国し、それに代わって多種多様な人種・エスニックグループの漁民がハワイに流入したため、ハワイの漁業は多民族による事業へと変貌した。このように、本章では、戦争直後から 20 世紀後半におけるハワイの海における漁業の変遷と漁村の生活の変化ついて述べた。なお、本章の一部も“The 'Konpira-san' in Hawaii and the Japanese Fishing Culture from the 1920s to the Present” において報告された。

そして終章では、21 世紀のハワイにおいて、多様化、多民族化したハワイの水産業の現状について論じた。21 世紀に入ると日本人漁民の姿はほぼ消滅したが、一世紀以上前に導入された日本式の漁法や流通組織、そして海にまつわる信仰や人々のつながりなどが、時代とともに大きく変貌しながらも今日まで色濃く残っている現状に触れつつ、本書の締めくくりとした。

本書は『西日本新聞』『東京新聞』をはじめ、いくつもの書評で取り上げられ、好意的な評価を獲得した。

また、本研究におけるもう一つの主な成果である単著、Sea of Opportunity: The Japanese Pioneers of the Fishing Industry in Hawai‘i. (University of Hawai‘i Press, 2015)は、内容において『海の民のハワイ』と重複するものの、英語圏の読者向けに、日本の漁村文化や漁業の慣行を広く知らしめるべく、それらに関する記述がより詳細になっている。本書は 2015 年地域漁業学会賞を受賞した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　２　件）
①小川真和子「ハワイの海と日本の海：ハワイでカツオの一本釣り漁を行った日本の漁師さんの物語」立命館言語文化研究、28/ 1, 115-126 頁、2016 年、査読無。

②小川真和子「ハワイ準州における対日本人漁業政策－1930 年代から 40 年代を中心に」地域漁業研究、56/ 1, 87-118 頁、2015 年、査読有。

〔学会発表〕（計　３　　件）
①OGAWA, Manako. "The Sampan and Seascapes of Wartime Hawai'i: The Dialogue Over Japanese Commercial Fishing in Hawai'i Between the Local and Federal Governments From the Late 1930s to the 1940s." The Organization of American Historians, Annual Meeting. 2017.

②"The 'Konpira-san' in Hawaii and the Japanese Fishing Culture from the 1920s to the Present." The 9th International Convention of Asia Scholars, 2015.

〔図書〕（計　２　件）
①　　小川真和子『海の民のハワイ　ハワイの水産業を開拓した日本人の社会史』人文書院、2017 年、286 頁。

②　　OGAWA, Manako, Sea of Opportunity: The Japanese Pioneers of the Fishing Industry in Hawai ' i. University of Hawai'i Press, 2015. 205 頁。

〔産業財産権〕

○出願状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
小川　真和子（OGAWA, Manako）
立命館大学・文学部・教授
研究者番号：６０４４３６１０

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：

(4)研究協力者
(　　)